

劉夢得文集卷第三十

碑 釋門銘記講附

曹溪第六祖碑 佛衣銘

唐興寺儼公碑 第一祖新塔記

袁州廣禪師碑 夔州移鐵像記

華藏世界圖讚 成都新修福成寺記

大唐曹溪第六祖大鑒禪師第二碑

元和十一年某月日詔書追褒曹溪第六祖能
公謚曰大鑒實廣州牧馬總以跡聞繇是可其
奏尚道以尊名同歸善善不隔異教一字之褒

りゅうぼう とくぶんしゅう そうほん
劉夢得文集 宋版 (国宝)

1131 ~ 1162 年頃刊 40 卷 12 冊

縦 29 cm 横 21.4 cm

中国唐代中期の代表的詩人、劉禹錫（七七二～八四二）の詩文集。夢得は字。禹錫は七言絶句の名手として名を馳せたが、官僚時代権力闘争に破れ、長く左遷された影響からか、諷刺色の強い詩を詠んだ。晩年は、わが国平安文学にも多大な影響を与えた詩人・白楽天と親交を深め、その詩は白楽天と肩を並べ、劉白と並び称された。

掲出書は、南宋前期の紹興年間（一一三一～一一六二）に浙江省で刊行された、宋版である。宋版とは、宋代に印刷された書物の総称で、現存するもの少なく、そ

の印刷美から愛書家たちの垂涎の的になっている。また、宋代は校正作業も厳格に行われたため、その正確性が評価され、文献的意義も高い。本書の宋版完本は、中国にも残っておらず、本館所蔵本のみが世界でただ一つ伝存する。

京都建仁寺の創設者、榮西（一一四一～一二二五）が、宋への第一次留学（一一六八～七三）から帰国する際に、刊行後間もない本書を持ち帰ったと言われている。その後、京都の御典医（天皇や將軍の治療に携わる医師）福井崇蘭館を経て、本館に収蔵。昭和



三十年、国宝に指定された。一古典の数奇な伝来を物語っていると見えよう。

ちなみに、文集卷三十の巻末にある朱印「天山」は、室町三代將軍、足利義満の印。義満が鑑賞した際に捺されたものであろうか。この印字鮮明で堂々とした逸品を手に、満足顔の義満の姿が目に浮かぶ。

（天理図書館 森山恭二）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ただし6月30日は休み
 （本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）